

はしあゆみ

JOSHIBI no.182



あらゆる反応を、 推進力に。

物心ついた頃には「イラストレーターになる」と決めていた。ついには「グレウサ」や「ジンギスカンのジンくん」といった人気のキャラで大ブレイク。そんなはしさんの推進力は「批判すらもエネルギーに変える力」。その強さの原点に迫ります。

Photo 上澤友香 Text 立古和智

小

学校の卒業文集に「イラストレーターになる」と記すほど、この仕事への目覚めは早かったですね。担任の先生から頼まれて描いた学級新聞の絵で褒められたこともよく覚えていて、だからこそ「イラストレーターだ！」と思ったのでしょう。これが絵で喜ばれた原体験。高校の美術部では油絵もやりましたが、女子美に入る頃にはあらためて「イラストレーターになる」と決めていました。イラストレーターって絵が巧いのは当然で、自分で自分を売る力など必要ですよ。だから実技だけでなくマーケティングをはじめ関連する理論をしっかり学ぶ女子美の芸術学科は私にピッタリでした。在学中は自主的に描いたものを先生に見てもらい「まだまだ雑草だ」と一刀両断されることも。「雑草はすこく成長するから頑張ります！」と笑顔で返していましたね。褒められると嬉しいものですが「下手だ」と言ってくれる人も貴重です。言いにくいことを言ってくれる少数派ですからね。学生時代からイラストを描い

て報酬を得ていた一方、自主的にオリジナルのポストカードを制作してデザイン関係のイベントで販売することもありました。ここでは「売れるカード」を自分なりに研究したものです。「便座に腰かけたヤギがトイレトペーパーを食べているキャラ」とか、代表作のひとつ「グレウサ」の原型となった「目つきの悪いウサギのキャラ」とか。自分のホームページで「携帯待ち受け画像」や「オリジナルキャラ」の配信をはじめたのも女子美時代。いろいろ描くなかで「自分の絵はどういった方面に適しているか」と考えると「キャラクターかもしれない」とは感じていたものの、その手の仕事はなかなか回ってきませんから自主的に描いてみたのです。卒論で「奈良美智の作品からみるカワイイ論」を研究するなかで「カワイイ論」や「キャラクター論」を学んだので、その知識も生かしたかったですね。最初は単体だったキャラクター作品が、マンガに発展したのは卒業後一年目で、二年目はデザイン事務所に着を置き、社内イラストレー





ジンギスカンのジンくん ©はしあさこ

はしあさこ

イラストレーター、キャラクターデザイナー、マンガ家。1985年北海道生まれ。2008年女子美術大学芸術学科卒業。在学中よりイラストレーターとして活動。デザイン事務所勤務を経て現在フリー。広告、書籍、雑誌などにイラストやマンガを制作。イラストレーター集団「チームコドモ」所属。代表的なキャラクター作品に「グレウサ」「ジンギスカンのジンくん」などがある。
<http://www15.plala.or.jp/ASAKO/>



©はしあさこ/SUGAR-4CAST



ター兼デザイナーとして忙しい日々を送っていましたが、それでも昼休みは給湯室にこもって、いろんな会社に売り込み電話に励みましたし、深夜は自分のイラストを描いていました。そんな日々を送っていた矢先、私のホームページに掲載していたグレウサを気に入ったMY日テレから「4コママンガの連載をやらないか」と声をかけられます。続いてKADOKAWAの『キャラばふえ』での連載も決まりました。こんな風にキャラクターを描く仕事は一気に広がりはじめます。自分としてはイラストの仕事のひとつとしてキャラクターの仕事の位置づけていますが、キャラクターの

仕事はベラ一枚以上の奥行きがあるところが魅力です。コンセプトさえしっかりしていれば、どんな世界が広がっていくという楽しみ。グッズ展開されて色んな場所に置かれる可能性もありますね。イラストに比べてキャラクターは反応が早いのも魅力です。私たち創り手とファンとの距離が近いのは昨今の状況で、応援もすぐなら、批判もすぐに届きます。少し面白いキャラクターを描いたらSNSで何度もシェアされますが、同じくらい批判を集めることもある。批判があるときは、何かが引っかかっているときですから、まだいいと思います。一番良くないのは批判も応援もないと

きです。自分がいいと思わない作品は周囲もいいとは思わないものですから、自分がほしいものを創るのが原則ですが、仮にそれで批判が集まっても、高く評価してくれる人が一定数以上いるならあまり気にしない。もとい批判だって反応のひとつと推進力に変えてしまえます。批判すらも嬉しいのはそのためです。既存のキャラをさらに育てていくにしても、新たなキャラを生み出すにしても、それ以外の仕事をするにしてもスタンスは変わらない。学級新聞のときと同じで私は反応がほしい。そうでないと張り合いがありません。あらゆる反応を大切に今後も続けていきたいですね。



学校法人女子美術大学
理事長 福下雄二

このたび、学校法人女子美術大学の理事長に就任し、115年の歴史ある「女子美」の運営を担うこととなりました。

「女子美」は、1900年(明治33年)に、日本の女子高等教育の草分けとして、横井玉子、佐藤志津両先生により、「芸術による女性の自立」、「女性の社会的地位の向上」、「専門の技術家・美術教師の養成」を建学の精神として創立されました。

日本の私立美術大学の中で最も古い歴史を持つことや美術大学の中では日本で唯一の、そしてこの地球上にたった二つしかない女子だけの教育機関であること、また文化勲章受章者、文化功労者をはじめ社会で活躍する多くの卒業生を輩出していること、さらには歴史と伝統に基づく自由でのびのびとした校風であること等は、「女子美」の誇りとするところであります。

現在、日本の教育機関を取り巻く環境は、少子化の進展や社会・経済情勢の変化等により厳しくなってきました。

このような時こそ「女子美」の原点に立ち返り、建学の精神、115年の歴史の重みに思いを致し、学生・生徒、教職員、ご父母・保護者の会、同窓会等「女子美」関係者が一丸となって、女子美の持つ力「女子美力」を発揮しなければなりません。

「女子美」は、歴史と伝統を踏まえつつも時代の進展に即した教育組織・教育課程の充実や教育力の向上、女子大ならではのきめ細やかな教育上の指導、快適で充実した学生生活等美術教育環境の整備に取り組んでまいります。

皆様のご理解とご支援・ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

平成 27 年 10 月



短期大学部部长
小林 信恵



芸術学部長
橋本 弘安



大学院美術研究科長
稲木 吉一



学長
横山 勝樹

上葛 明広 前大学院美術研究科長は5月末日に退職いたしました



女子美術大学名誉理事長 大村 智先生が
ノーベル生理学・医学賞を受賞

本学名誉理事長大村智先生がノーベル生理学・医学賞を受賞されました。心からお祝い申し上げます。

大村智先生は、天然物有機化学・薬学の分野の科学者であると同時に、美術に関しても大変ご造詣が深く、永きにわたり女子美術大学の理事長をお勤めになり、本学の発展に貢献されました。

このたびのご受賞は、女子美術大学にとっても大変名誉なことでもあります。

日頃より、大村智先生は、「科学と芸術はともに《創造》と《想像》の両方が不可欠であり、その融合が人類の未来を好ましい方向へ導く」ということを仰っておられます。女子美術大学は、今後とも、その理念に合う教育に力を尽くしてまいります。

学校法人女子美術大学
理事長 福下雄二
女子美術大学・女子美術大学短期大学部
学長 横山勝樹

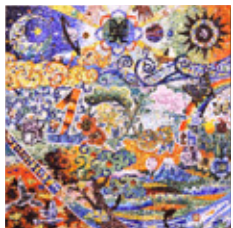
大村 智先生略歴

女子美術大学名誉理事長。北里大学特別栄誉教授。1935年山梨県韮崎市生まれ。1963年東京理科大学大学院理学研究科修士課程修了。薬学博士、理学博士、日本学士院会員。文化功労者。

1997年～2003年、2007年～2015年5月まで本学理事長、2003年～本学名誉理事長を務め、女子美術大学創立100周年記念事業ならびに110周年記念事業の推進。1999年、大村先生ご夫妻による多大なる寄付を基に、文子夫人の名を冠した「100周年記念大村文子基金」を設立。毎年、パリとミラノに研修生を派遣するなど、国際的なアーティスト・研究者の育成を目指し、我が国の芸術文化の振興にも寄与。2007年、郷里の山梨県韮崎市に女流作家の作品を常設する「大村大村美術館」をつくり、2008年、美術館、美術品を市に寄贈。館長も務める。2014年、途上国の人びとの健康の向上に多大な貢献をした科学者に贈られるカナダ・ガードナー国際保健賞を日本人で初の受賞。2015年10月ノーベル生理学・医学賞を受賞。

女子美術大学付属高等学校・中学校 創立100周年記念

2015年は女子美術大学付属高等学校・中学校創立100周年の節目の年となります。私立女子美術学校創立から15年後の大正4年、菊坂校舎に私立女子美術学校附属高等学校が開校したことからスタートした女子美術大学付属高等学校・中学校は、美術大学の付属校として日本でもっとも長い歴史と伝統を重ね、100年の歳月のなかで「女子の美術教育」を培ってきました。卒業生の多くはアーティストやクリエイターとして社会のさまざまな分野で活躍し、注目を集めています。2015年5月に東京の上野の森美術館にて開催され



た「創立100周年記念 描く100年 創る100年『未来へつなぐ展』」では、付属高等学校・中学校の生徒による優秀作品や「大村文子基金 女子美術奨励賞」受賞作品のほか、社会で活躍中の卒業生の作品などおよそ900点を展示。来場者は5000人を超え、女子美ならではのパワーあふれる展覧会となりました。また、創立100周年としてロゴマークの制作や、体育館の壁面を彩るモザイク壁画の制作・設置など付属生徒たちの手でさまざまな取り組みが行われました。これからの付属生徒たちの情熱と輝きに満ちた活躍に期待が高まります。



女子美の黎明期を支えた佐藤家に拝謝 学校法人順天堂と連携・協力協定を締結

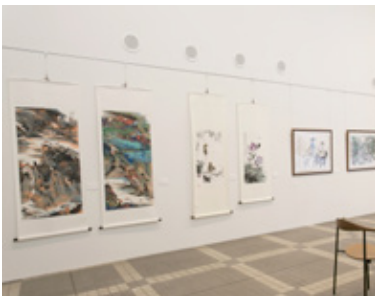
1900年、明治33年に女子美術学校を創立後、病に倒れた創立者・横井玉子先生の意志を引き継いだ佐藤志津先生。志津先生は、順天堂第二代堂主 佐藤尚中の長女であり、そして第三代堂主 佐藤進先生の妻でもありました。志津先生が亡くなられた後は、佐藤進先生が女子美術学校の校長に就任。その後、第四代堂主 佐藤達次郎先生が本学の理事長、学長、さらには付属高校・中学校の校長も務められています。このように女子美の礎を築かれた佐藤志津先生が持つご縁がきっかけになり、順天堂大学と本学は歴史的にも強い結びつきをもつように。ただその結びつきは、残念

ながら第二次世界大戦後に希薄になってしまいました。ここ近年、両校のあいだで互いの交流・連携を強く望むようになり、連携・協力への準備が進められました。そして5月20日、学校法人順天堂と本学は連携・協力に関する協定を締結。調印式は順天堂大学本郷・お茶の水キャンパスにて執り行われ、同校より小川秀興理事長、本学より大村智理事長(当時)が協定書に署名を行いました。両校は今後、「ヒーリングアート! 癒しスポーツメンタルなどを切り口にしたさまざまな分野・領域において、連携協力や新たな取り組みを目指していきます。

相模原キャンパスに多目的空間ギャラリー『SPACE1900』が誕生

今年度より新たな多目的空間ギャラリー『SPACE1900（スペースイキユゼロゼロ）』が誕生しました。女子美の創立年である1900年、そして相模原キャンパスの住所である1900番地より命名されたこのギャラリーで、第4回百年丹青展（日中国際交流書画展 上海交通大学・女子美術大学）を開催。展示会の開催にあわせ上海交通大学から7名の先生が来日しました。さらに中国画家である呉一平先生、詹仁左先生、王琦先生、3名の教員の方々による特別授業を3日間実施。中国国内において第一線で活躍中の画家である呉先生、詹先生、王先生によるデモンストレーションでは、先生方が手にした筆から墨の濃淡を生かしてみごとに描きだされる花や鳥、海老や蟹に女子美生たちは息

をのんでいました。用意された御手本を見ながらの実習では、普段とは全く違う墨の扱い方や筆の持ち方に戸惑う女子美生たちを丁寧にご指導くださる先生方。四苦八苦しながらも「墨をほかして樹木のしなやかさや鳥のやわらかい質感を描こうとは思いますが…難しい!」「紙も筆も日本のものとは違うところがおもしろいですね…筆にどれくらい水を含ませればいいのか、いろいろ試してみます」と参加した学生も試行錯誤。通訳を介した先生方のお言葉に熱心に耳を傾け、実習に取り組んでいました。



<来日された上海交通大学の方々>
 張安勝(ジャン アンション)先生:副学長
 蔡玉平(サイ ユピン)先生:国際協力交流処・副処長
 馬磊(マ ライ)先生:教育発展基金会・秘書長
 于洋(ユ ヤン)先生:教育発展基金会・マネージャー
 詹仁左(ゼン インゾウ)先生:海派文化研究所・常務副所長
 呉一平(ウ イピン)先生:海派文化研究所・秘書長
 王琦(ワンチ)先生:海派文化研究所・書画部主任



YOHJI YAMAMOTO (HOMME) 2016 Spring / Summer Collection

パリコレでヨウジヤマモト×大学院生 朝倉優佳さんのコラボ作品が登場

6月25日、パリコレで発表されたヨウジヤマモトの2016年春夏メンズコレクションで、本学洋画専攻の博士課程に在籍中の朝倉優佳さんが本学客員教授でもある山本耀司先生とコラボしたアイテムが発表されました。山本先生の絵画制作サポート役として創作に関する交流があった朝倉さん。「どんな絵を描いているの?」と問われ、ペインティングを中心としたポートフォリオをお見せしたところ「ん。いいね」の一言で、今回のコラボ企画が始まったのだとか。企画がスタートしてからは、アーティストとして表現したいことと、服として成立する表現の交差点を探していくなか葛藤を覚えることもあったそうです。制作しながら朝倉さんがたどりついた答えは「スーツに描かれている色や刷毛跡に、自分の世界観が見取ればいいのではないか」。彼女が提出した作品を目にした山本耀司先生は、「こう一言おっしゃったとか。「ああ、やっぱり自分のちゃんとした世界観があるんだね」。そ

れを聞き朝倉さんは、自分の世界観が構築できたことを改めて実感し、同時に山本先生にその世界観を見て取っていただけたことが嬉しかったそうです。実際にコラボ作品をじっくり見られたのは、パリコレのショー後の展示会で。「私にとってスーツの形をしても自分の絵画作品なので、最初は作品を見直すような気持ちで見えていましたが、服として身にとわれていく様子を想像していくうちに、じわじわと嬉しさがふくらんできて最高の気持ちになりました」。パリのメディアも世界のヨウジヤマモトと若手アーティストのコラボに注目。各メディアで大きく取り上げられました。ヨウジヤマモトでの経験を通して、朝倉さんが感じたことは「人とつながっていくことのできる、対話のできる作品を作りたい」ということ。視覚のみならず、人の眼や肌を通してなにかを伝えられるような作品を作り、その作品のどこにでも私を出しているような制作をしたい、と話してくれました。

女子美×片岡球子展コラボトークイベント

【TAMAKO】美とは強さ】を開催



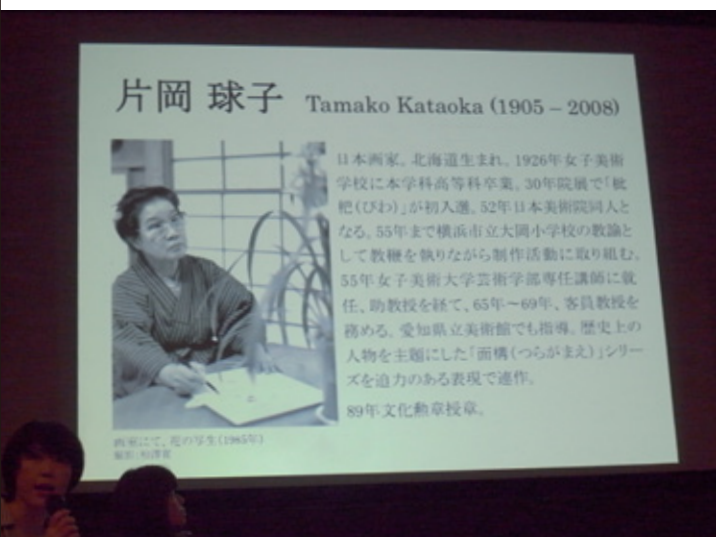
1926年に女子美術学校日本画科高等科を卒業し、1930年に院展に初入選。以来、鮮烈な色彩と大胆にデフォルメされた形、そして力強い筆致で追隨を許さない唯一無二の存在として活躍した日本画家、片岡球子先生。その80年にもおよぶ画家としての活動を、代表作60点によってたどる『生誕110周年 片岡球子展』が東京都と愛知県のみならず、全国の会場で開催されました。今回その展覧会関連企画として実施された本学と展覧会のコラボイベントについてご報告します。

生誕110周年を記念して東京国立近代美術館と愛知県美術館で開催された『生誕110周年 片岡球子展』。この展覧会の関連企画として、片岡球子先生が本学卒業生であるご縁から女子美と片岡球子展のコラボ企画『TAMAKO】美とは強さ』が4月25日、東京国立近代美術館にて行われました。この企画では片岡球子先生のお名前の球子TAMAKOと、本学創立者のひとり横井玉子先生のTAMAKOに注目。おふたりが培った、ものごと

の真を見極め新しいものを作り出していく精神を引き継いだ女性像を『TAMAKO』としてとらえ、ゲストの方々に『TAMAKO』についてお話いただくことになりました。イベントの司会は本学アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域准教授の日沼禎子先生が務め、トークゲストとして参加してくださったのは美術作家の秋山さやかさんと美術監督の岩城南海子さん、そしてデザイナーの島峰藍さんの3名の卒業生。当初はマイク

を手に少々緊張気味だったゲストの方々も『TAMAKO』というキーワードのもと、ご自身の作品をふりかえったり、学生時代の思い出の一枚で盛り上がりたりと楽しいトークが展開されました。トークイベントに会場された方々からは「女子美の卒業生だと片岡球子さんや堀文子さんとか、女優の桃井かおりさんや賀来千香子さんを知っていました。が、ほんとうに多方面で活躍されて

いる方がいらっしゃるんですね」との卒業生への感想の他、「大河ドラマの八重さんのように、明治の頃に女性への教育に力を尽くした方が他にいたなんて、はじめて知りました」と横井玉子先生への感想も寄せられました。女子美が培ってきた「ものを作り出す力」、そしてそれを「伝え育んでいく力」を改めて実感できるイベントとなりました。





03 |

バティックとプロダクトデザインの融合 作品を両国で展示

本学プロダクトデザイン専攻学生18名と、インドネシア国立ジョグジャカルタ芸術大学学生15名が「ものづくりを通じた芸術文化と人材交流プロジェクト」を実施。インドネシアの伝統工芸でユネスコの無形文化遺産である「バティック」(ジャワ更紗)と、生活に身近な製品をつくる「プロダクトデザイン」を融合させた作品を企画・制作し、両国で展示会を開催。会場では計33点に及ぶ作品を写真と文章で紹介。日本(相模原市・ユニコムプラザさがみはら 会期:3月21日~25日)、インドネシア(ジャカルタ・国際交流基金日本文化センター 会期:4月2日~6日)の展示会では、「バティック」を活用した斬新なアイデアと高評価を得ました。※本事業は国際交流基金の助成を受けていました。



01 |

ディーパ・ゴパラン・ワドワインド大使の講演会を開催

6月12日、相模原キャンパスにてインド大使館、駐日特命全権大使ディーパ・ゴパラン・ワドワ閣下による講演会「インドにおける女性の社会進出と日印芸術文化交流等について」を開催。講演ではインドの女性の社会進出の現状、活躍中のインドの女性アーティストや、おすすめインド映画などについてもお話いただきました。聴講した学生からは、「これまでメディアで見聞していたインドと違うイメージを受けました」「インドの文化に興味

を持ちました」などの声が寄せられました。講演会の後は、女子美アートミュージアム収蔵の染織コレクションや、デザイン・工芸学科工芸専攻と美術学科日本画専攻の工房を見学。大使は本学が横井玉子と佐藤志津、二人の女性が創立した、日本で初めての私立の美術大学であることに感動され、「もっと早くに女子美のキャンパスを訪れたかった。今後、ますます日本とインドの交流が盛んになることを目指していきたい」と語られました。

04 |

「溝田コトエ コレクション展」 女子美ガレリアニケで、開催

9月11日より10月7日まで、女子美ガレリアニケと110周年記念ホールにて、「溝田コトエ コレクション展—上昇と飛翔を巡る物語—」が開催。本学卒業生で名誉教授である溝田コトエ先生より女子美ガレリアニケへ寄贈された現代美術のコレクション作品約130点が紹介されました。展覧会初日には、アーティストトークとしてアートプロデュース表現領域南島宏教授との対談が行われ、溝田先生から美術大学を志したきっかけや、作品制作に没頭した女子美時代、欧州留学について、作品を買うコレクターとしての意識などについてお話がありました。溝田先生はトークの最後に女子美生へのメッセージとして「師匠を求めずに自分で考える。それができなければ芸術はできない」「寸暇を惜しんで勉強してください。それだけで充分です」との言葉を寄せられました。

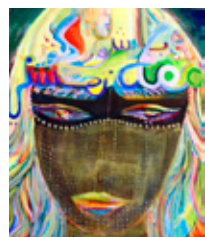


02 |

第3回 「美術教育セミナー」開催

8月10日、杉並キャンパスにおいて小・中・高等学校の美術科教員、本学の院生、学生等を対象とした第3回美術教育セミナー「今、美術教育で大切にすべきこと」が終日開催されました。午前の部では文部科学省初等中等教育課教科調査官の東良正人氏による同タイトルをテーマとした基調講演が行われ、午後の部では本学卒業生でもある現役小・中・高図工・美術科担当教員による教育実践レポートの発表がありました。更に、参加者アンケートの結果も交え「普段の授業の中で大切にしていること(もの)」をテーマに会場全体で活発な意見交換が行われました。

NEWS
&
TOPICS



駐日アラブ外交団主催 アラブウィーク2015 特別芸術展 開催

4月6日～10日、東京の広尾にあるオマーン・スルタン国大使館にて、駐日アラブ外交団主催のアラブウィーク2015特別芸術展が開催されました。この展覧会では日本人アーティストが表現したアラブ世界の印象やイメージによる作品を展示。アートを通してアラブと日本を結ぶ絆を生み出すさまざまな作品が集結しました。4月7日のオープニングレセプションには、本学卒業生でシルクロードをテーマにした絵画制作を行い、現在も画家として活躍中の入江一子先生や、芸術学部美術学科洋画専攻2014年度卒業生で、アラブを題材し絵画や映像表現で注目を集めている戸田泰子さんが出席。華やかかつ和やかな幕開けとなりました。アートは言葉が通じなくても交流のきっかけをつくる力があります。今回の特別芸術展はアラブの世界をより深く知る機会となりました。



イケムラレイコ先生 特別講演



6月、相模原キャンパス13号館にて芸術学部美術学科洋画専攻客員教授のイケムラレイコ先生による特別講演が行われました。テーマは「宇宙からの声」。現在、ドイツを中心に世界各国で活躍されているイケムラ先生が、自身のルーツの源となった伊勢 志摩半島の風景をはじめ、アーティストとして活動するきっかけとなった出来事、1980年代に制作された作品を通して「生きものとはなにか」「生きていくとはどのようなことなのか」についてなど、多岐にわたってお話いただきました。ひとりの女性として、20代で単身ヨーロッパに渡り活動を続けていらっしゃるイケムラ先生のエピソードはとても魅力的で、受講した女子美生たちは真剣な表情で耳を傾け、その世界に惹きこまれていました。特別講演は今後も実施予定で、特別ゲストなども交え継続的に行っていきます。

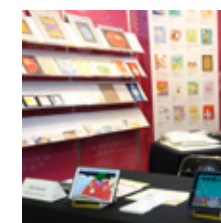


「HYPER JAPAN 2015」に女子美ブース出展

7月10日～12日にイギリスで開催された日本の伝統と今を伝えるイギリス最大規模のイベント、HYPER JAPAN 2015。盆栽など日本の伝統的文化や、漫画、ゲーム、アニメなど人気上昇中のポップカルチャーから食文化までさまざまな展示が行われ、8万6千人の来場者で賑わいました。女子美ブースは2014年に引き続き2回目の出展。リピーターの方々を含め連日大勢の人で賑わいました。英語の事前研修を受けた

学生達は、オリジナル作品の販売や漫画似顔絵描きに休む暇なく取り組みました。とくに漫画似顔絵は人気が大集中、学生同士お互いに協力し合うことでブース運営を進め仲間の絆も強くなりました。参加した女子美生はアートやデザインの力で人と人が繋がることのできる体験をし、成果を得ることができました。

「ポローニャ児童書フェア 2015」 にブース出展



3月30日～4月2日、Bologna Children's Book Fair (ポローニャ児童書見本市)がイタリアのポローニャで開催されました。2014年に続き女子美ブースを出展、ヒーリング表現領域とメディア表現領域の学生作品を展示しました。2015年は「不思議の国のアリス」誕生150年記念イベントも実施され、世界各地から出版社の方々や絵本作家、イラストレーター、翻訳者などが来場し、女子美ブースも連日賑わいました。ヒーリング表現領域は学生自作製本の絵本や原画を展示。イタリア、トルコなどの出版社からオファーがありました。メディア表現領域はデジタル絵本とAR (Augmented Reality) 技術を用いた絵本のデモンストレーションを行いました。今後も世界に向けた発信の場での、女子美生たちの多様な可能性への挑戦に期待されます。



スプツニ子!氏による 特別講演会開催



7月7日、杉並キャンパス「キャリア形成B」の公開授業では、現代美術家スプツニ子!さんを講師にお招きし、特別講演会を実施しました。スプツニ子!さんの代表作である『生理マシン・タカシの場合。』『カラスポット☆ジェニー』『ムーンウォーク☆マシン、セレナの一步』などの作品を上映しながら、それぞれの制作エピソードや、社会に対しての問題提起などをお話いただきました。また、スプツニ子!さん自身の学生時代にも言及。大学受験時の提出作品や動画配信サイトでの作品発表、ソーシャルメディアで作品制作の協力者の呼びかけなど、さまざまなエピソードを紹介いただきました。講演会を通して、「人の発想が変われば、世界が変わる。自分は何かを変えられると信じてほしい」とのスプツニ子!さんからのメッセージに参加学生たちは大いに刺激をうけました。



11 | えどがわ伝統工芸産学公プロジェクト

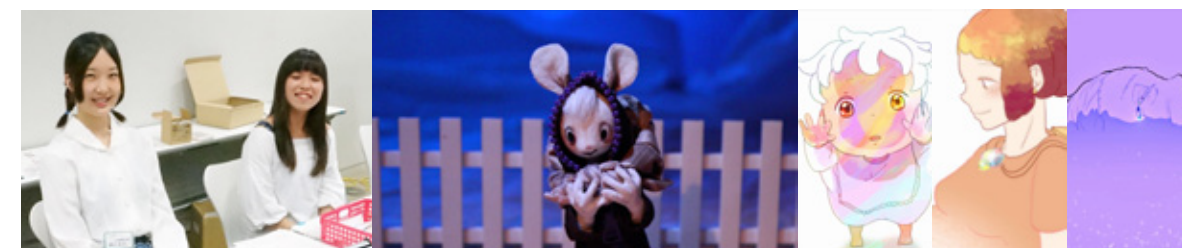
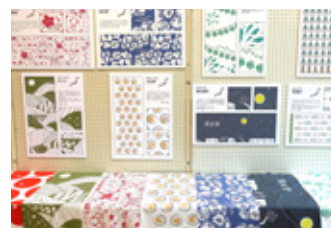
江戸川区の伝統工芸者と学生がコラボレーションし、実際に製品化し販売まで行う「えどがわ伝統工芸産学公プロジェクト」。本年1月にはタワーホール船堀で第12回の新作発表会が開催され、85人の学生が122点の作品を発表しました。江戸扇子で「甘味」を制作したデザイン・工芸学科工芸専攻2年飯岡留菜さんは「抹茶ぜんざいやチョコレートなどの甘みをモチーフとしたポップな模様を提案しました」とのこと。型小紋ケープ「粋」を制作したメディア表現領域3年高野愛唯さん

からは「職人の方と買う人の思いを考え、理想と現実のギャップを埋めながら、実用性などの要素を追求してデザインしました。賞をいただいたので、この経験が制作への自信につながりました」との声が寄せられました。製品化された作品は代官山蔦屋書店、伊勢丹新宿店、目黒雅叙園でも期間限定で販売され好評を得ました。
※制作された作品は「えどコレ!」で購入が可能です。
(<http://www.rakuten.ne.jp/gold/edocore/>)

12 |

メディア表現領域羽太謙一ゼミが、「ブレン」にて紹介

広告・クリエイティブの専門誌「ブレン」7月号の「クリエイティブゼミ」にて、芸術学部アート・デザイン表現学科メディア表現領域羽太謙一教授のゼミが紹介されました。羽太ゼミでは、ブランディング、イラストレーション、アートアニメーションなどの分野が得意な学生が集まり、デザインとアートの力で各地の地域づくりに協力しています。北海道美瑛町のポスター、福島県北塩原村の60周年記念ロゴ、宮崎県高原町のパンフレットなど各地域の依頼を受けデザインを制作、なかでも長野県高山村との活動ではフィールドアート、サイン計画、アートコンテスト、こどもワークショップなど村の活性化にもつながり、今年で10年目を迎えました。2015年度のゼミでは「日本で最も美しい村」54町村の景観や特産物をモチーフにした手ぬぐいをデザイン、美瑛町と木曾町で展示会を開催しました。



「コウモリとどろぼう」 齋藤千鶴 4分30秒/2014

「あなたの色はナニイロ」 絵 林里 2分54秒/2014

10 | ICAF 2015開催

8月28日から31日に開催されたインターカレッジ・アニメーション・フェスティバル (ICAF) 2015東京本大会は、アニメーションを専門的に学ぶ教育期間が推薦する学生作品を一同に集めたアニメーションフェスティバルで、29校の大学や専門学校が参加しました。会期中にはメディア表現領域2014年度卒業制作6点の作品の上映会を開催。齋藤千鶴さんが制作したパペットアニメーション「コウモリとどろぼう」は、どうしても

空を飛びたいネズミがコウモリの羽をどろぼうしてしまうというストーリーで、細部まで丁寧に作り込まれたパペットが、ダイナミックに動き回る場面は必見です。また、「ICAFジングル」と呼ばれる作品の合間に流れる短いアニメーションは、2年茂木亜美さん、川森南帆さんが制作。受付や会場誘導も女子美の学生が協力しました。



17 | 女子美×東工大 ペリパトス・オープンギャラリー 展示作品リニューアル

本学大学院美術研究科と東京工業大学院総合理工学研究科は2013年に連携・協力に関する協定を締結。東京工業大学すずかけ台キャンパスの「ペリパトス・オープンギャラリー」では本学の卒業生と修了生の作品が展示されています。毎年展示作品のリニューアルの際、若手アーティストを奨励する学長賞や研究科長賞などが授与されるため、女子美生にとっても大きな励みとなっています。4月17日に開催された表彰式には出品者だけでなく多くの教員も参加。女子美生の手掛けた作品を觀賞しました。



16 | 12ヵ月を彩る誕生石ストール 伊勢丹にて販売!

4月22日から5月10日まで伊勢丹で開催された母の日ギフト特集のひとつとして、女子美生がデザインした「12ヵ月誕生石ストール」が販売されました。1月から12月まで、それぞれの月の誕生石にちなみイメージデザインされたこのストールは、紫外線をカットする素材で作られており肌触りもさらさら。優しい色味で顔まわりを明るく彩る、素敵なギフトアイテムだと大好評でした。この「12ヵ月誕生石ストール」をきっかけに伊勢丹との新たな企画も提案されており、女子美生の今後の活躍に期待が高まります。

13 |

ディー・エヌ・エー取締役会長 南場智子さん、講演会を開催

7月14日、ディー・エヌ・エー取締役会長、そして創業者である南場智子さんを杉並キャンパスにお招きし、特別講演会を実施しました。ディー・エヌ・エーのメイン事業や、新サービスを立ち上げる際のエピソードを紹介いただいた後、「美大生の持つ個性」「企業がクリエイターを求めていること」「自分に限界を設けずチャレンジする重要性」についてお話いただきました。「ユーザーを喜ばすためにサービスにはとことんこだわる」「何かをつくりあげて夢中になっているときが一番楽しい」「お金が生まれるということは、お金を払ってでも欲しいサービスを生み出しているということ」など、経営者ならではの持論が展開されました。講演会の最後の質疑応答では、学生から活発に質問が出るなど、参加学生にとって、大変刺激を受けた講演会でした。



19 | 国際交流ラウンジ 10号館2階にオープン!

女子美生自らが企画・運営していくことを目的とした交流スペース「国際交流ラウンジ」が、相模原キャンパス10号館2階に新しくオープンしました。設計・施工管理を担当したのは、芸術学部デザイン・工芸学科環境デザイン専攻助手の松本加恵先生。畳をあしらったオープンスペースや、靴を脱いで腰掛ける階段スタイルのレストスペースなど、明るくきれいで、ゆったりと利用できるラウンジに女子美生たちも大喜びです。留学生と日本人学生、教職員の誰もが気軽に集まれるような、そんな素敵なラウンジを目指していきます。



18 | 映画「GAMBA ガンバと仲間たち」 (10月10日全国公開) 株式会社白組主催のワークショップに協力

8月、全国20か所で開催された株式会社白組主催「ねんどでつくるアニメーション」に、女子美の学生が、プロのアニメーターや他大学の学生とともにスタッフとして参加しました。これは、映画「GAMBA ガンバと仲間たち」(10月10日全国公開)の公開を記念したワークショップで、粘土で作った人形を動かすアニメーション制作をiPadを使用して行うというもの。メディア表現領域4年鈴木悠香さんより「親子で協力して作品を仕上げる姿から、アニメーション制作の喜びをあらためて感じました」との声が寄せられました。



<左>「鮭の一生」制作/太田那菜 ©2015 Nana Ohta
<右>「鮭体新書」企画/青木悠香、川田珠里、板倉真生、朝日綾菜
制作/板倉真生、朝日綾菜 ©2015 Project Team A

15 | 「夏休みサケ展」で 学生作品を展示・配布

2015年2月、本学は水産総合研究センターとの包括連携協定を締結しました。その一環として、メディア表現領域3年生が、水産総合研究センターのサケの専門家の方々からサイエンスの視点からのアドバイスを受けながらさまざまなコンテンツを制作し、高い評価を受けました。7月28日～8月2日に横浜みなと博物館で水産総合研究センターが開催した「夏休みサケ展」において、制作したコンテンツの中からサケにまつわるゲームや漫画などの作品が、展示・配布され、こちらも大好評だったとのこと。



葛西憲之弘前市長とともに

14 | 「ふるさととはあたたかく、格別」 佐野ぬい前学長、 弘前市名誉市民称号授与

本学前学長、名誉教授でもある佐野ぬい先生に、出身地である弘前市より名誉市民の称号が授与されました。7月に開催された名誉市民顕彰式典に出席した佐野先生は「称号は絵を描く自信になった。しっかりしなきゃと自覚が出た」と喜びを語っていらっしゃいました。また同市立博物館では、今回の授与を記念し「青の画家」である佐野先生の展覧会「青の時間—佐野ぬいの世界」を開催しました。

女子美ガレリアニケ

Slaughterhouse-13

4/6(月) ⇨ 5/13(水)

本学絵画学科出身で第17回岡本太郎現代芸術賞の岡本敏子賞を受賞したサエボーグをご紹介します。

女子美術大学美術館収蔵記念 森田元子一真実の形象一展

5/22(金) ⇨ 6/17(水)

女子美術大学美術館コレクションの中から本学元教授である洋画家、森田元子先生の作品をご紹介します。

自由選択で作る自分だけのカリキュラム2015

女子美術大学短期大学部 1年前期「基礎造形」展

7/3(金) ⇨ 8/5(水)

本学短期大学部1年次の自由選択授業で制作された学生作品を展示しました。

満田コトエコレクション展 一上昇と飛翔を巡る物語一

9/11(金) ⇨ 10/7(水)

本学名誉教授である満田コトエ先生より本学に寄贈を受けた現代美術のコレクション作品と満田先生の作品をご紹介します。

展覧会予告

JAM

造形「さがみ風っ子展」

10/22(木) ⇨ 11/3(火・祝) ※火曜休館、但し11月3日(火)は祝日のため開館

毎年恒例の相模原市教育委員会主催による小中学生の展示です。

「女子美染織コレクションPart5 KATAZOME」展

11/14(土) ⇨ 12/20(日)

型染めは型紙を使用して様々な模様を染める染色の一技法です。鮮やかな色彩とともにその極小の模様は人間の作り出す技の極致ともいえます。本展覧会では、数々の型紙と日本における型染めの変遷をご覧いただけます。

平成27年度 女子美術大学 退職教員記念展

1/6(水) ⇨ 2/1(月)

平成27年度に定年退職される実技系教員による展覧会です。

平成27年度 女子美術大学大学院修了制作作品展

3/7(月) ⇨ 3/15(火) ※会期中無休

平成27年度に大学院美術研究科を修了する学生の作品を展示します。JAM:洋画、日本画、版画、工芸(織、刺繍)、立体芸術、視覚造形、環境造形、芸術表象を専攻した学生の作品を展示。

女子美ガレリアニケ

女子美スピリッツ2015 ー郷倉和子展ー

10/16(金) ⇨ 11/4(水) ※10月25日(日)特別開廊

本学卒業生で名誉博士である郷倉和子先生の梅花を描いた作品をはじめ、女子美時代のスケッチなど約20点を展示します。

女子美術大学・長岡造形大学・東京工芸大学・多摩美術大学・中国伝媒大学・東方設計学院(台湾)六大学合同写真展・〇(まる)展

11/13(金) ⇨ 11/25(水) ※11月22日(日)特別開廊

本学をはじめ、長岡造形大学、東京工芸大学、多摩美術大学、中国伝媒大学、東方設計学院、六つの大学でそれぞれに写真を学ぶ学生の写真作品を展示します。今年度より新たに台湾の東方設計学院の学生が加わりました。

第9回 ポスターにできること。女子美術大学×電通 人権ポスター学生作品展

12/4(金) ⇨ 12/16(水)

株式会社電通と美術大学のコラボレーション企画「人権アートプロジェクト2015」に参加した本学学生のポスターを展示します。

女子美ガレリアニケ キュレーターズセレクション2015

1/15(金) ⇨ 2/3(水)

ギャラリー学芸員が注目するアーティストをご紹介します。

女子美術大学AP(アートプロデュース表現領域)卒業制作(南高ゼミ+日沼ゼミ) AP Theatre 2015 ーAP劇場2015ー

2/12(金) ⇨ 2/25(木)

アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域4年生による卒業制作展。アートの枠組みに囚われない自由な作品をご紹介します。

平成27年度 女子美術大学大学院修了制作作品展

3/7(月) ⇨ 3/15(火)

平成27年度大学院美術研究科メディア(メディアアート造形)、ヒーリング、ファッションテキスタイル、アートプロデュース修了生による作品展示を行います。

歴史資料展示室

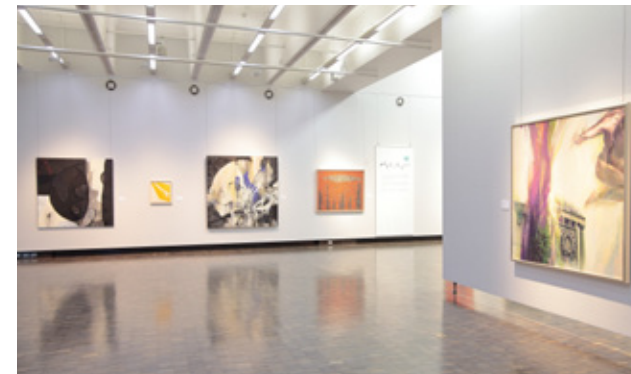
平成27年度収蔵資料展 収蔵資料にみる女子美の歩み

ー女子美術大学付属高等学校・中学校創立100周年記念ー

4/3(金) ⇨ 3/13(日)

休室日:火・日・祝日、10月30日、12月25日~1月6日 ※特別開室 9月6日、10月25日、3月13日

収蔵資料展示を通じて本学の115年の歴史を紹介するとともに、一部コーナーにて創立100年を迎えた本学付属高等学校・中学校の関係資料を展示します。



JAM 展覧会報告 PICK UP

2015/4/6(月) ⇨ 4/26(日)

本展では新収蔵作品として、2013年度に当館に寄贈された森田元子先生の作品11点を中心に展示しました。森田元子(1903~1969年)は、1924年に女子美術学校西洋画科高等科を卒業したあとパリで学び、主に官展と光風会展で活躍しながら、1948年からは女子美術専門学校(現在の女子美術大学)教授に就任するなど後進の指導にあたりました。また本展では併せて「女子美パリ賞」受賞者の作品を展示しました。「女子美パリ賞」は、女子美創立100周年を記念して創設された大村文字基金によって運営され、受賞者をパリへ派遣し、その創作活動を支援するもので、1999年度より続けられています。約90年前にパリで学んだ森田先生と、それから長い月日を経て同じくパリで学んだ、女子美パリ賞受賞の若手作家たちの作品展示をおして、卒業生の力強い歩みを感じ取っていただくことができました。

新収蔵作品とパリ賞の作家たち展



女子美術大学広報誌

発行 学校法人女子美術大学
〒166-8538
東京都杉並区和田1-49-8
企画・編集 総務企画部広報グループ
監修担当 浅野正博・林規章
デザイン協力 株式会社 Kitchen Sink.
印刷 株式会社 ヒーローズ
発行日 2015年10月20日
©2015 学校法人女子美術大学

広報グループでは女子美のニュースを募集しています。お気軽に下記までお知らせください。また、本誌の定期購読をご希望の方はお送り先を広報グループまでご連絡ください。

広報グループ | TEL 042-778-6123
E-mail prs@venus.joshibi.jp
URL <http://www.joshibi.ac.jp>